

初級 看板から文字文化を学ぼう！①

問題1 【町で見る看板】読めるかな？



①



②

(き) 生

問題2 【歴史資料に描かれた看板】次のページの資料の「昔の看板」を、ヒントを参考にしながらグループで読んでみよう。

問題3 現代の看板が「くずし字」で書かれていたら、どのようなイメージ、効果があるだろうか。

問題4 店舗看板を考えよう。

○商品名、アピールしたいイメージや効果

○看板に書きたい文字

1 戸塚
とつか



あめや

ヒント ある商品を専門に売る店です。一文字目だけ、先ほどの看板読み活動を振り返ってみよう。

2 草津
くさつ



うわらちや

ヒント ①全部で五文字です。②商品名が入っています。

③二字目には濁点がついています。④三・四字目が商品名です。絵をよく見てみましょう。

3 鞠子
まりこ



名づくら子

ヒント ①全部で七字書いてあります。②一字目は漢字の「名」です。③二字目は「繰り返し」を表す記号「ゝ」です。④六字目は「繰り返し」を表す記号「ゝ」です。⑤七字目は漢字です。



『東海道五十三次』鞠子（中央下部に看板があります）



『東海道五十三次』戸塚（左上に看板があります）

『東海道五十三次』草津（中央上部に看板があります）

解答

問題1

- 問題1 ①生そば ②いんぶ
問題2 1 戸塚…こめや 2 草津…うばもちや
3 鞆子…名物とろゝ汁

問題3・4 解答例：歴史がある、和風、老舗、高級、
信頼感、奇抜など。

教材について

ねらい：歴史資料にあるくずし字による看板文字を解読し、看板の持つ意味を考え効果的に文字を書く。

時間配分：くずし字解読50分、看板効果を考え、看板文字の創作原稿作成50分、看板文字制作50分

対象教科・学年：国語（書写）・中学校3年

解説

江戸期浮世絵作品の中で著名と言われる、歌川広重『東海道五十三次』五五枚の中には看板が描かれている絵が神奈川宿ほか全部で七枚あります。その中から、比較的読みやすい字で書かれていると思われる一枚を抽出しました。戸塚・鞠子・草津の三枚です。

問題1 問題1では、くずし字解読のハーダルを下げる、また現代でもくずし字看板が残つていらむことを感じさせるために「生そば」「いんぶ」の一枚を使用しました。特に「生そば」は現代でも多く見られる書体です。

で、生徒たちにもなじみが深いと思います。

問題2 問題2でいよいよ東海道五十三次に描かれて

いる看板の解読学習になります。

①戸塚 正解は「こめや」ですが、「こ」は「戸」のくずし字であり、問題1で読んでいるので、「ぬ」「や」が難なく読める)ことを考えると、最初に読む字としては易しいと思します。

②草津 画像中央上部の看板に「うばもわや」と書いてあります。現在では「姥ヶ餅」という名で名物になつてゐるそうです。この看板の解読もやや難しいのでヒントを用意しました。「全部で五文字である」「食品名が二・四字目に入つてくる」「二字目には濁点が付いてくる」等です。この絵の場合、純粋にくずし字を解読させてもいいのですが、絵の部分も参考になります。店舗内の人々の様子を観察すると、餅をこねたり、食べたりしている

人が描かれています。これらの情報がくずし字解読の推理材料となります。浮世絵教材を使用する)との面白さは、字だけでなく)のように絵の部分も参考になることがあります。国語の学習の意義からすれば「言葉」にこだわるべきなのですが、最近は非連続型テキストである画像や動画も教材とされています。そのような学びも味わってみましょう。

③鞠子 画像中央の店舗に立てかけてある看板「名ぶつ

とろゝ汁」を教材としました。この解読は漢字仮名交じりなので、ヒントがあつた方が、楽しく取り組めると思

います。例えば、「金船で七字書いてある」「二字目は漢字の『名』である」「二番目には濁点が付いていな」「六

字目は『繰り返し』を表す記号である『ゝ』である」「七字目は漢字である」等です。この段階からグループで協力し合つて解読していきましょう。

なお、この「鞠子宿」絵には看板がややこしく一つ、また障子紙と思われるところに力所にもくずし字が書かれています。画像向かって左側の看板は「御ちやつけ(お茶漬け)」、右側の障子紙には「酒さかな」「御茶漬け」です。

教材解説

これらは、三枚の浮世絵ワークが終わつてしまつた生徒へのチャレンジ教材になります。
さて、解読終了後は、このようなくずし字看板が現代にもあつた場合の効果やイメージを考えてみましょう。ここまで学習における、くずし字が江戸時代に存在していたことの実感に基づき、それが現代にあつた場合の効果やイメージを出し合つてみましょう。

そして、最後には自分でくずし字看板がふさわしい商品や店舗を考え、看板文字を制作してみましょう。

教材解説

このシリーズは、歌川広重(初代)が、江戸日本橋から京三条大橋にいたる「東海道五拾三次」の各宿駅に当つて描いた名所・風景・風俗絵の大錦横判五五枚揃いから成る。これ以前にも「東海道五十三次」は描かれたが、大判横という大きさで全五五枚完結したのは、このシリーズが最初である。(国立国会図書館デジタルコレクション解題より)底本のJPGは次の通り。https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1307523?tocOpened=1(担当:永吉寛行)

